

ながさき げんばくお
長崎に原爆落つ (松口月城)

原爆 炸裂 天地 轟く
崎陽 満目 猛烟 生ず
大廈 高樓 瞬時に 砕け
山 崩れ 海 翻り 鉄塔 傾く
須臾にして 焰焰 大火 起こり
焦頭 爛軀 累々として 横たわる
夫は 妻を 喚び 妻は 子を 覓む
阿鼻 叫喚 修羅の 声
八万の 生霊 恨みを 呑んで 死す
嗚呼 原爆の 大犠牲
文化の 悪用 人類を 滅ぼす
平和の 鐘 何の 時にか 鳴らん

解説 長崎に原爆が落ちた状況を述べた詩。

語釈 ※原爆 原子爆弾。ウランやプルトニウムなどの元素の原子核が起こす核分裂反応を使用した核爆弾であり、初めて戦争において攻撃用に実使用された核兵器である。※炸裂 爆弾、砲弾などが破裂すること。

※崎陽 長崎の異称。※満目 見渡すかぎり。※猛烟 激しく立ちのぼる煙。
※大廈 大きな建物。豪壮な建物。※高樓 高く造った建物。※瞬時 瞬間。
※須臾 しばらくして。※焰焰 「火が燃え上がるさま。※焦頭爛軀 事変の渦中に身を投じて奔走すること。※累々 連なり続くさま。※阿鼻叫喚 悲惨な状況になり、人々が泣き叫んだりして混乱している様子。※修羅 激しい怒り、情念などのたとえ。※生霊 生きている人間の霊魂が体外に出て自由に動き回るといわれているもの。

通釈 原爆が炸裂し天に地に轟く。長崎は見渡す限り激しい烟に包まれた。高層の建物は瞬時に砕け、やまは崩れ、海は翻り、大きな鉄塔が傾いた。暫くして大火が起こり、人々は渦中に身を投じて奔走が続き、横たわっていった。夫は妻を呼び、妻は我が子を探し求め、まさに長崎は阿鼻叫喚、修羅の場と化した。八万人の生霊は恨みながら死していった。原爆による大きなぜいが生じた瞬間であった。科学文化の悪用は人類を滅ぼす。平和の鐘は何時になったならば鳴るのだろうか。